



# 支え合い新聞

NPO法人 志免地域支え合い互助基金

2020年9月 創刊号

この新聞は、NPO法人志免地域支え合い互助基金が発刊する新聞です。  
志免町のなかにある多くの支え合いにスポットをあてる新聞です。  
この町に こんなに多くの支え合いがあることを知ること  
心豊かに安心して生活ができるように！ という祈りを込めて発刊する新聞です。  
今後、3ヶ月に一度のペースで発刊してまいります。  
みなさま、どうぞよろしくお願い致します。

NPO法人 志免地域支え合い互助基金  
理事長 下稲葉 康之

「支え合い」って聞くと  
何をイメージしますか？  
今、「支え合い」のシンボル  
マークを、志免町の中学生に  
考えて頂いています。

皆さんだったら、  
「支え合い」をどんなマーク  
で表現しますか？



別府3町内会主催「やさしい声かけ訓練」の一場面

この写真は、  
2019年11月30日に行った  
別府3町内会主催  
『やさしい声かけ訓練』で  
撮影されたシーンです。  
道に迷い不安を抱えていた人に  
小学生の2人がやさしく声を  
かけてくれました。  
この場面は、道に迷った方が  
やさしく声をかけてくれた  
小学生に、「ありがとう」の  
気持ちを込めて  
「ありがとうカード」を  
渡しているシーンです。

## マスクでエール！ 気持ちよー とどけ！

ミシンの音がする店内から時より聞こえる笑い声(^^♪

ここは、志免町にある『つつみミシン』さんです。

キルト仲間が集うこのお店では、ここを基地にしキルトで糟屋の町を結び、糟屋全体を盛り上げ、活気のある地域かすやを創ろうと意欲満々のご婦人達が今日もミシンを動かしています。

宇美町誕生100周年！を祝うために、毎年行ってきたかすや6町キルト展の本会場が宇美町で行われる運びで準備万端でした。しかしそんな折、新型コロナウイルスの流行が起きます。そして、マスク不足でマスクが買えない！と危機を訴える医療関係者を含め、介護や福祉施設で頑張る人達に感謝の意を込めたエールマスクを贈ろうプロジェクトをます。来る日も来る日もマスクをつくっては寄付を行い、その数何と三千数枚。愛情のこもったマスクのお陰で、緊急事態宣言の時を乗り越えることが出来ました。

ありがたい気持ちを、ありがたい気持ちが受取る、気持ちの通じ合ったこのプロジェクト。頑張っている人にエールを贈るこの文化をこれからも大切にしたいですね。



「つつみミシン」さんのエールマスクプロジェクト

## いてもたってもいられない！ 被災地支援チーム チーム田中屋

チーム田中屋を率いるリーダーの田中清昭さん。  
志免町別府西で肉屋を経営されています。

きっかけは、2011年に起きた東日本大震災でした。「俺に何が出来るだろうか？ この何とも言えない気持ちは何だろう？ いてもたってもいられない！」そう思った田中さん、早速行動を興じます。

それ以降、志を同じくする仲間が集い、チーム田中屋へと広がっていきました。

今年の7月に起きた九州での豪雨災害。チーム田中屋さんの始動は速かった。

チーム田中屋ラインで田中さんが呼びかけます。『〇月〇日、大牟田で炊き出しを行います。被災された皆さんにエールを贈りに行きます。行ける方は連絡を下さい』だったと思います。

この1本のラインで数十名の方が集結し、大牟田を含め、被災地での支援活動を行っています。

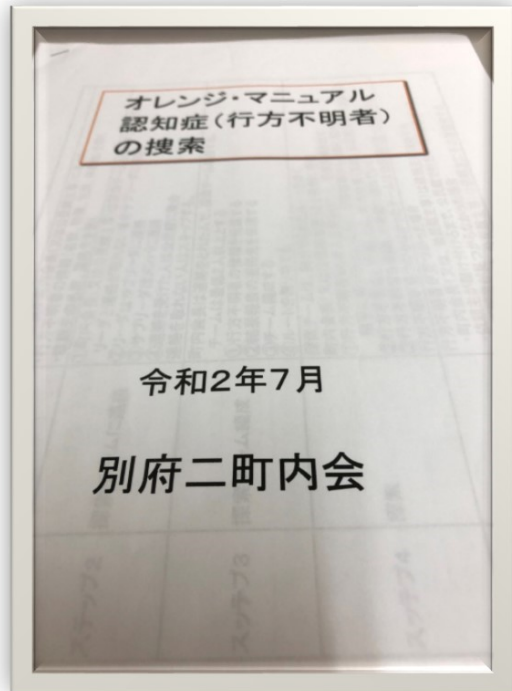
『困った時はお互い様。これからも、自分達ができる事で支え合い・助け合い活動をしていきます』

と笑顔で力強く語る田中さんです。



チーム田中屋 リーダー田中清明さん

## 別府2町内会 11月「やさしい声かけ訓練」開催予定 !!



別府2町内会「オレンジマニュアル」

古くて新しい街..別府2町内会。

この地には、長年この地で生活している方、マンションができ引越してきた方の他、工場・倉庫・会社・病院等もある地域ですからこの地で働く方々も多くいます。いろいろな人が日中暮らすこの別府2町内会で、この秋はじめて『やさしい声かけ訓練』が開催される予定です。

訓練は、町内会で創った緊急連絡網に行方不明者が出た事を知らせる搜索協力をお願いする連絡と、公民館から行方不明者が出た事を知らせ搜索依頼をするアナウンスから始まります。

果たして何人の方々が搜索してくれるか？やさしく声をかけてくれるか？連絡網は機能するか？等、この訓練の準備を行う方々の間では、不安と期待が入り混じっています。

今後、認知症の方が多くなるのではないかと予想される中、地域で誰がそうなるかはわかりません。誰がなってもおかしくない昨今、人生最期の時まで安心して地域で暮らすことができる為には、顔見知りになり、声を掛け合う文化や、互いを見守り、何かあれば直ぐに助ける文化があればいいな—と思います。

このチャレンジを始める別府2町内会さん・・今後注目です！！

## 困ったときはお互い様でしょう。この気持ちをいつまでも大切にしたい。

60歳から始めた新聞配達。今年で23年になりました。朝、2時20分に起床。それから準備を始め新聞配達に出かけます。毎月月末には、約300件の集金に伺います。その際、1人暮らしの高齢者の方や老老家庭の方々から身体が動かなくなったので庭木の剪定や草取りがしんどい。という話を聴きます。

『困っていらっしゃるんだな..』と想いつつ『これだったら俺にも出来るのではないか?』そう想い、『良かったら私がしましょうか?』と、気が付けば声が出ていました(^^♪

以後、困っている人がいれば、こんな私で良ければお手伝いをさせて下さい。と申し出てはお手伝いをさせて頂いています。

しかし私も83歳。まだ身体が頑張ってくれているからできていますが、この先ずーと行う自信はありません。

『困った時はお互い様は、何も肩ひじを張って行う必要はありません。自分にできる事を、自分のできる時間に行えばいいのです。願わくば、同じ様に行う仲間がたくさんできれば嬉しいです。』

NPO法人志免地域支え合い互助基金 理事 渡邊 明さん



皆さん、私は仲間を募集しています。

こんなに達成感を感じ、ありがたいの気持ちを頂き嬉しいことはありませんよ！



#### 4コマ漫画 作：長谷川賢史 (ハセガワ サトシ)

1970年生まれの50歳。

40歳の時に若くして脳出血を患う。

以後、リハビリ生活を送る。

努力が実り、現在は社会医療法人栄光会の職員として、医療介護施設かめやま内にある売店のスタッフとして従事する傍ら、貼り絵や4コマ漫画の作家としてのチャレンジも行う。

好きな言葉 『地道de努力』

#### 【表紙のひと】

##### ・村島寛治さん

道に迷った役を担当されました。現在は、別府3町内会の老人クラブである「平成クラブ」の会長さんです。

##### ・佐藤こころさん

やさしく声をかける役を担当されました。相手の人に寄り添って声をかけると相手の人が優しい顔になったり、笑顔になる事がわかりました。という感想を話してくれました。現在、志免中学1年生です。

##### ・佐藤はるかさん

やさしく声をかける役を担当されました。知らない人に声をかけるには勇気がいりました。という感想を話してくれました。現在、志免西小の5年生です。

##### ・黒田隆康さん

この写真を撮影をされました。ちょうどよいタイミングで撮影をして頂きました。

## 新聞つくりスタッフ

### 大募集!!

支え合い新聞では、共に新聞つくりをしてくれるボランティアスタッフを大募集中です!!

新聞つくりの経験 や 年齢 等々における制限はありません。

最も必要とするのは、志免町が好き、人が好きそして、やる気!!です。

我こそは!と思う皆さん、老若男女どなたでもOKです。奮ってご応募ください。

お待ちしております。――す。

#### 【応募連絡先】

NPO法人 志免地域支え合い互助基金  
事務局 鷹尾(タカオ)まで。

電話 **092(692)1512**

〒811-2205 福岡県糟屋郡志免町別府2-2-1  
医療介護施設かめやま内